群馬県施設イチゴIPM実践指標

数格計画の作成(金) 数格開始前に、年間の具体的な音響曲別除計画を作成している。				(普及指導室	至)	
	管理項目	管理 ポイント 点		チェック欄		
##は、後の子の子変形、原音性の必要、それのは、1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			点数	の実施	の実施	今年度 の実施 状況
### 200 日本	防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
記念的の確保		黄病等が発病した育苗施設の苗は親株として使用していない。育苗中に病害虫の発生が見	1			
常商中は、港水が過度にならないよう場合するとともに、ボットの関係を削ける号して、多選 にならないというにくれる。 用面に用いるは優生で呼吸がは、滞成なものを使用している。 1 パーラーシャとに関係の本化での時ち込みを訪っため、育面側の重剤的除を機能している。 1 生境用毒 地域の素、排生の発生が穏念されるは増においては、値付前に薬剤による土壌用毒や大解 切成の解剖的除に対している。 2 埋みの脚よ対策に固能し、水は対き良好に保っている。 1 地域内への害虫の侵入防止 施設内への害虫の侵入を防止するため、施設利口部によっド等を展変している。 1 地域内への害虫の侵入を防止するため、施設利口部によっド等を展変している。 1 地域内への害虫の侵入を防止するため、施設利力部にようで、自然内への害虫の侵入の治療が対象に関係し、水は対き良好に保っている。 2 かんのでよりの機力が関係と表している。 2 かんのでは、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1	建全英の確保		1			
	在王田 00 唯 14		1			
地別海		育苗に用いる培養土や資材は、清潔なものを使用している。	1			
知用は、日本語の一部にあたっては、事前にこの使用が治している。 1		ハダニやうどんこ病等の本ぽへの持ち込みを防ぐため、育苗期の薬剤防除を徹底している。	1			
周辺の諸南別除に努めている。 日本の非水対策に関密し、水はけを良好に保っている。 1	上壌消毒		1			
超過内への害虫侵入防止措施というのを発生が脱りするため、施設閉口部にネット等を展現している。 1	栽培ほ場周辺の雑草管理		1			
無限所のの審生使人防止指	非水対策	ほ場の排水対策に留意し、水はけを良好に保っている。	1			
一次の		施設内への害虫の侵入を防止するため、施設開口部にネット等を展張している。	1			
が要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行うことで健全な作物育成を 行っている。特に急激な虚妙。原料が打は多所後も助長するので、品種の特性及び生育に応じ 相及付が削までに随車が発生した場合は、能率の様子結束前に除草を行っている。 1 一個種に応じた適正な数権態度で定植している。 品種に応じ造正な数権態度で定植している。 品種に応じた適正な数権態度で定植している。 品種に応じた適正な数権態度で定植している。 無数内が高温・多星になるないように適正な対象を行っている。 有き虫残生予察情報等の確 (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4		飛来性害虫を捕殺するため、粘着トラップ等を設置している。	1			
施肥管理 行っている。特に急激な足効、即料切れは発病を助長するので、品種の特性及び生育に応じた過圧な原肥量をラフている。		シルバーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。	1			
下物の栽培管理	施肥管理	行っている。特に急激な肥効、肥料切れは発病を助長するので、品種の特性及び生育に応じ	1			
福健に応じた適正な栽植密度で定植している。		植え付け前までに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行っている。	1			
温種に応じた適正な致危速度で定植している。 施設内が高温・多温になないように適正な投気を行っている。 施設内が高温・多温になないように適正な投気を行っている。 有害虫物操力が発表する発生予要情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ 等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討している。 施設内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除 の要否を判断している。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握 すってることで、防除の変否、防除回期を判断している。 前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測 している。 ・ 部態原理の無主助防除所・普及指導セッター等と終密な打ち合わせを行う等 十分な検討を行い、部態原理の講主助防除所・普及指導セッター等と終密な打ち合わせを行う等 ・ インタを検討を行い、新生をでている。		マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。	1			
病害虫粉性子教情報等の確 (8 (必) 「	作物の栽培官理	品種に応じた適正な栽植密度で定植している。	1			
(8 (必)		施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。	1			
施設内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して助除 の要合き判断している。また必要に応じて始着トラップ等を設置し、善虫の発生動向を把握 1 することで、防険必要を、防除物理を判断している。 前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測 1 生物農薬の使用にあたっては、事前にその使用方法や関連技術、使用する化学農薬の特性 等について、都道府県の病害虫的旅所や普及指導センター等と綿密な打ち合わせを行う等 1 十分な検討を行い、計画をたている。		等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討して	1			
前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。 生物農薬の使用にあたっては、事前にその使用方法や関連技術、使用する化学農薬の特性 等について、都道府県の病害虫的除所や普及指導センター等と綿密な打ち合わせを行う等	病害虫防除の要否の判断	施設内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除 の要否を判断している。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握	1			
等について、都道府県の病害虫防除所や普及指導センター等と綿密な打ち合わせを行う等 1 十分な検討を行い、計画をたてている。 1 ワタアブラムシ対策に天敵昆虫(ミヤコカブリダー・チリカブリダー)を有効に活用している。 1 ワタアブラムシ対策に天敵昆虫(コレマンアブラバチ)を有効に活用している。 1 フェンラミ類対策に微生物廃薬(ペキロマイセス フモソロセウス剤等)を有効に活用している。 1 うどんで病、灰色かび病対策にバチルス ズブチリス剤等の微生物農薬を有効に活用している。 2 を補助をおにあたっては、下葉かき作業後に行う等、病害虫の発生部位に薬剤が十分かからようにしている。 2 を補助に 粒剤等を処理し、少量の薬剤でその後の害虫の発生を有効に抑制している。 1 大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 1 展業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当験地域で薬剤 解受性の低下または薬剤剤性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 1 原業を飲かする場合には、適切な飛散防止措置を繰じた上で使用している。 1 は場害侵入防止のため、耕起を行う際には、病害発生がないが発生程度の低いほ場から順に行うとともに、ほ場を移動する際にはて持機等に付着した土をよく落としている。 2 収穫後残渣に焼膏害虫の発生薬となるため、早めに処分している。 1 収穫後残渣に焼膏害虫の発生薬となるため、早めに処分している。 可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、素以込みを行い、害虫の施設外への過亡を防止している。 1 収穫後残渣の処理(必) 疾以込みを行い、害虫の施設外への過亡を防止している。 1 収穫後残渣の処理(必) 機能関係の名数、管理大院、音虫の施設外への過亡を防止している。 1 収穫後残渣の処理(必) 機能関係の名数、管理大院、表作薬日誌として別途記録してい 2 条 施設内を閉め切り、素以込みを行い、害虫の施設外への過亡を防止している。 1 原産・環の変施は、病害等の呼風に係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 2 条 施設内を関め口が関係する即解係を等に参加している。 1	(必)		1			今年度の実施
生物農薬の利用		等について、都道府県の病害虫防除所や普及指導センター等と綿密な打ち合わせを行う等				
フタアブラムシ対策に天敵昆虫(コレマンアブラバチ)を有効に活用している。	上物典芸の利用	ハダニ類対策に天敵昆虫(ミヤコカブリダニ・チリカブリダニ)を有効に活用している。	1			
2 かっとんこ病、灰色かび病対策にパチルス ズブチリス剤等の微生物農薬を有効に活用してい 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	土物長楽の利用	ワタアプラムシ対策に天敵昆虫(コレマンアプラバチ)を有効に活用している。	1			
高		コナジラミ類対策に微生物農薬(ペキロマイセス フモソロセウス剤等)を有効に活用してい	1			
古まりにしている。 「定値時に粒剤等を処理し、少量の薬剤でその後の害虫の発生を有効に抑制している。 「	『書虫発生予察情報等の確 ((必) 『書虫防除の要否の判断 必)	うどんこ病、灰色かび病対策にパチルス ズブチリス剤等の微生物農薬を有効に活用してい	1			
表験に影響の少ない殺虫剤を利用している。 1			1			
農薬を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 農薬を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。		定植時に粒剤等を処理し、少量の薬剤でその後の害虫の発生を有効に抑制している。	1			
別感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。	農薬の適正使用(必)	天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。	1			
世境病害侵入防止のため、耕起を行う際には、病害発生がないか発生程度の低いは場から 順に行うとともに、は場を移動する際には作業機等に付着した土をよく落としている。			1			
正場の衞生管理 順に行うとともに、ほ場を移動する際には作業機等に付着した土をよく落としている。 発病株や罹病部位は、発見次第、早期に除去してほ場外に出し、適切に処分している。 収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、素し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 香機作薬の実施日、病害虫・軽単の発生状況、原薬を使用した場合の展薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 素 「特会等への参加(必) 「特異業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 「自計点数		農薬を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。	1			
発病株や罹病部位は、発見次第、早期に除去してほ場外に出し、適切に処分している。 1 収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了 後、施設内を閉め切り、素し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 西展作業の実施日、病害虫・軽草の発生状況、展薬を使用した場合の展薬の名称、使用 時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 1 人	ほ場の衛生管理		1			
収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了 後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 日			1		1	+
音機作業の実施日、預審虫・鞭単の発生状況、展薬を使用した場合の展薬の名称、使用 時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 1 また (表) 乗や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計 点数	収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了				
ス 頭修会等への参加(必) 東や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計 点数	作業日誌の記帳(必)	各展作業の実施は、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用	1			
合計 点数		ā.				
	M P女子、/W 多 加(必)	不下放来的川村口はこが開業するに「MVIP 女子に予加している。	合計			
						+

群馬県施設キュウリIPM実践指標

(事業項項目 管理 ボイント 品数 作成の (中級) 数地関始前に、年間の具体的な病害虫的除計画を作成している。	及指導室)		
議会報子の確保	の実施の	例 今年度 の実施 状況	
正な品種の選定		,,,,,	
調査の選生を予防するため、質問には期間園に汚染されていない場性土や資材を用いている。商業のの発生を予防するため、質問には期間園に汚染されていない場性土や資材を用いている。商業のでは自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは、自己のでは自己のでは自己のでは自己のでは自己のでは自己のでは自己のでは自己のでは			
16. 高世県小子は今日は今日の中の一次 18年 18年			
南部旅設や南部は場への害虫傷人を抑制するため、施設側口部のネッ体態、始着トックプ 1 の設置、シルバーフルルの等の影響がありません。物理が助除手段を出ている。 1 日前の連択と改善 は高柱でする等対策を指している。 1 日前の連択と改善 は高柱でする等対策を指している。 1 日前の連択と改善 は高柱でする等対策を指している。 1 日本の参加を発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全部のみを定租している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を発している。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を対したいる。 1 日本の参加を対している。 1 日本の参加を対している。 1 日本の参加を対している。 2 トルド・ファラス、クロクラルマラの反射質材など、電虫思密が出めている。 1 日本の通知を対している。 2 トルド・ファラス、クロクラルマラの反射性がなど、電虫思密が出めるの高質材を設置している。 2 日本の通知を対している。 2 日本の通知を対している。 3 日本の通知を受けている。 4 日本の通知を対している。 3 日本の通知を受けている。 4 日本の数語を理 2 日本の通知を受けている。 3 日本の数語を受けている。 4 日本の数語を理 3 日本の数語を受けている。 1 日本の数語を理 4 日本の数語を受けている。 1 日本の数語を理 5 日本の数語を受けている。 1 日本の数語を受けている。 1 日本の数語を受けている。 1 日本の数語を関すている場を変している。 1 日本の数語を対している。 2 日本の本の数語を対している。 2 日本の本の数語を対している。 2 日本の本の数語を対している。 3 日本の本の表語を対している。 3 日本の本の表語を対している。 3 日本の本の表語を対している。 4 日本の本の表語を対している。 4 日本の本の表語を対している。 4 日本の本の表語を対している。 5 日本の本の表語を対している。 5 日本の本の表語を対している。 1 日本の本の表語を対している。 4 日本の表語を対している。 5 日本の表記を対している。 1 日本の表記を対したい。 6 日本の表記を対している。 1 日本の表記を対したい。 6 日本の表記を対したい。 6 日本の表記を対している。 1 日本の表記を対したい。 6 日本の表記を対している。 1 日本の表記を対したいる。 2 日本の表記を対したいる。 1 日本の表記を対したいる。 2 日本の表記を対したいる。 1 日本の表記を対したいる。 2 日本の表			
#神の選邦に適した水はけの良いほ母を選択している。排水の悪いは場に作付けする場合 1 に関心である対策を製している。 1 に関心である対策を製している。 1 に関いのは単語である対策を製している。 1 に関いのは単語である対策を製している。 1 に関いのは単語である対策を製している。 1 に関いのは単語があたりあっている。 1 に関いのは単語があたりあっている。 1 に関いる対策があたりあっている。 1 に関いる対策があたりあっている。 1 に対している等の反射質材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。 1 に対抗植物の作付け			
は高地になどの は高い は は で			
無認内への害虫の優人を防止するため、施設門口部にネット等を展落している。 1 施設内への害虫の優人を防止するため、統善トランブ等を設置している。 1 対抗植物の作付け			
無決的人の害由侵入防止措置			
フルバーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。 1 土壌消毒			
1			
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##			
8、また土壌のドを測定し、適正な土壌のドに矯正している。 相え付け前までに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行っている。 マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。 品種に応じた適正な栽植密度で定植している。 品種や作型に応じた適正な栽植密度で定植している。 品種や作型に応じた適正な栽植密度で定植している。 素を共力を表しまり、一般なりが多くの場上子教情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップを各用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討している。 「は、			
作物の栽培管理			
日報に応じた適正な栽植密度で定植している。 1 1			
品種に応じた適正な栽植密度で定植している。 品種や作型に応じた適正な換菌・整枝を行っている。 施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。 施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。 病害虫助除所が発表する発生予察情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ 等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討して いる。 「場内を見回い、病害虫の発生や破害を把握するとともに、気象予税などを考慮して防除 の要否を判断している。また必要に応じて発音トラップ等を設置し、善生の発生を考慮して防除 の要否を判断している。また必要に応じて発音トラップ等を設置し、善き虫の発生動向を把握 することで、防除の要否、防除時期を判断している。 一度場内には凝虫粒剤を施用し、生育初期の害虫発生状況を確認し、病害虫の発生を予測 している。 「作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。 展薬を散布する場合には、適切な飛散防止措置を護じた上で使用している。 「大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「海豚を使用する場合には、同系核の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当酸地域で薬 別感受性の低下または薬剤剤酸性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 適用のある害虫に対して、BT(パチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・パシアーナ剤 などの微生物農薬を有効に活用している。 適用のある害虫に対して、BT(パチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・パシアーナ剤 などの微生物農薬を有効に活用している。 「場面のある病害に対して、パチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。 「電病床や甲薬・摘葉した薬等に放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復 が困難な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 フィルス病・細菌病の発生が思念される場合には、発生を助長させないように弱具 手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほぼでは、必要に応じて支柱などの用具 を消毒している。 「収穫後残渣の処理(必) 「食用量、飲布方法等のIPMに係わる栽培管理状況、角質使用に知合の解薬の名称、使用 時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況。存在には知合の解薬の名称、使用 時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日話として別途配給している。 「食用を放っているの質な、発生を助している。 「食養の食物、皮肤、発生を助している。 「食養の食物、皮肤、発生を助している。 「食養の食物、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、皮肤、			
施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。 1 病害虫発生予察情報の確認 (必) 病害虫防険所が発表する発生予察情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ 等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討して 1 に 域内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除 の悪否を判断している。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握 1 することで、防除の要否、防除時期を判断している。			
病害虫発生予察情報の確認 (必) 「場合用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討している。 「場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。また必要に応じて結婚トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除の要否、防除時期を判断している。 前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生が近く確認し、病害虫の発生を予測している。 前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生が近くを考慮している。 「た物の生育に合わせ、充分な変がが得られる範囲で悪少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。 「未教に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「大教に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「農薬を使用する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。 「大教に影響の少ない殺虫剤を利用している。 「農薬を使用する場合には、高原底の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤剤性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 「適用のある害虫に対して、日バチルス・チェーリングンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。 「適用のある害虫に対して、ドチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。 「適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。「自用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。「自用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。「自用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤をともなよりに、カリス病・細菌病等回復が困難な病害による発病体は、発見次第早急に抜き取って適切に必分している。「自用のなどので支柱などの用具体を行うている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消費している。 「なら機発液は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終する。 「なら機発液は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終する。 「ならの機発液は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終する。 「ならの食料液の実施日、病害虫・雑草の発生が洗り食用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の「PMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。			
(必)			
の要否を判断している。また必要に応じて私着トラップ等を設置し、審虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判断している。 前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。 定植時には級虫粒剤を施用し、生育初期の害虫発生を防止している。 作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。 農薬を被する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。 、大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 農薬を使用する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。 、大敵に影響の少ない殺虫剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤剤性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。 1 1 2 3 3 6 5 6 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6			
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法 を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。 1 展業を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。 1 天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 1 開業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤・避免性の低下または薬剤剤性菌が確認されている展薬は使用を控えている。 1 適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。 1 適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。 1 位との微生物農薬を有効に活用している。 1 位と場合の微生な流音による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 1 位別な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 1 位別を放棄が寄生となるため、早めに処分している。 2 位別を消毒している。 1 位別を残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。 可能であれば収穫終了 2 依 施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 を解析している。 4 機能数の配帳(必) 存職が定め発生が関値するIPM研修会等に参加している。 1 合計			
を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。			
天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 1			
農業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている。 適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。 1 適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			
別感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。			
連用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・パシアーナ剤 などの微生物農薬を有効に活用している。 適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。 1 程病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復 が困難な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 1 ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具 を消毒している。 1 収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸じ込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 長作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 1 る。			
などの微生物農薬を有効に活用している。 適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。 1 程病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 合業中業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 1 の新修会等への参加(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1			
程病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 「作業日誌の記帳(必) 特別、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 「中業日誌の記帳(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 「日本のでは、おりに、なりに、なりに、なりに、なりに、なりに、なりに、なりに、なりに、なりに、な			
が困難な病害による発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 ウイルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 日機作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 「中業日誌の記帳(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1			
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 日農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 日本の表別(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 日本の表別(必) 日本の表別(必) 日本の表別の表別である。 日本の表別(必) 日本の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の			
作業日誌の記帳(必) 時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録してい 1 る。			
研修会等への参加(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計			
評価 結果			

群馬県施設トマトIPM実践指標

(水)	管理項目		の事	1	(普及指導室)		
協立の企業を行からなり、対象としている。 対象とれている場合でお売用している。 対象とれているに関すり最近の選手が表示の処理を行うている。 できない。 また、		管理 ポイント		昨年度 の実施	今年度 の実施	今年度 の実施	
語子などの財産	防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1				
語で込得すの意文 1. 日本の日本のでは、1. 日本の日本ともからなら、 病害には病患者に対象されていない物を上が異なる。 1. 日本の日本ともかけったら、 有限との対象と生かけったら、 有限とは病患者に対象とない。 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本ともかけったら、 1. 日本の日本との日本との日本との日本との日本との日本との日本との日本との日本との日	健全種子の確保		1				
議会会議の書類(金) 「報告に実際の設定が表示的ため、類正な環境機、設定機会やの、実際のでは過度なから水を選がなると、高温を選加さなられていた。 「おいまたのではないため、選加な環境機会である。	適正な品種の選定	土壌病害の発生を予防するため、病害に対する抵抗性品種もしくは抵抗性が高い台木を作型と品質を考慮しながら選	1				
			1				
		 育苗中に病害虫の発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全苗のみを定植している。	1			_	
	健全苗の確保(必)		1				
世の温泉化及着(必)			1				
(24) の書籍の機能では、			1				
(多) で16.	ほ場の選択と改善(必)		1				
議議内への事由の得入を助止措 (栽培は場周辺の雑草管理 (必)		1				
		施設内への害虫の侵入を防止するため、施設開口部にネット等を展張している。 黄化葉巻病の発生地域や発生が懸念される地域では、施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを、施設内環境等を考慮しながら導入している。	1				
上規用毒 (製造の発生が整めされる国場においては、面付前に薬剤による土地用毒や大層総用素、土地通元用毒を (素能している。	ル設内への舌虫を入防止指 置	飛来性害虫を捕殺するため、粘着トラップ等を設置している。	1			1	
英語している。 東海している。 東海している。 「1		シルパーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。	1				
の表上にUT工作的新年号け、結果を参考にして適切な施肥を行い、通動施肥を避けている。また土壌。Hを測定し、通 也在人材が耐かてに発展が発生した場合は、排車の様子結束前に除車を行っている。 マルチ等により建筑を検理し、差のはお上がりを防止している。	土壌消毒		1				
正な土地外には廃止している。	対抗植物の作付け	ポニアグラス、クロタラリア等を作付けし、センチュウ密度の低下を図っている。	1				
マルチ等により軽面を被覆し、那のはね上がりを防止している。 1 1			1				
応称に応じた適正な栽植密度・定核とでいる。 品種や作型に応じた適正な指属・整核を行っている。 品種や作型に応じた適正な指属・整核を行っている。高温・多温になる作型。あるいは自合いの小さなネット等の適切では、場合では高に対し、担合にはは両路、投資大量で、動物投資ででも30歳を設置している。 マルハナバチやミッバチなどの訪花思虫を利用している。マルハナバチは施設外への適定防止のためネット等の適切な高温・多点を「後の大き、対している」を展示、数目を「その映画の過年が過ぎるのと「対した。マルハナバチには、での映画を入手に、発電している。マルハナバチは施設外への適定防止のためネット等の適切な高度、対している。を大きな関係を対している。マルハナバチにはないである。マルハナバチやミッバチなどの訪花思虫を利用している。マルハナバチやミッバチなどの訪花思虫を利用している。マルハナバチやミの大きな関係を関係を担めている。東海を検討している。を大きな関係を見回、気料性の発生を対している。を大きないまた。大きな関係を見回、気料性の発生を対するとともた、変更・解放と生き増している。 定機時には脱虫を対解を施用・生育初期の害虫発生を防止している。 「他のと質に合わせ、充分な家がが得られる範囲で最少の使用量となる最適な数布方法を検討した上で、使用量・対象方が表を決定している。 「機能の企業に合わせ、充分な家がが得られる範囲で最少の使用量となる最適な数布方法を検討した上で、使用量・対象方が表を決定している。 「大きなど野の少ない機由発生利用している。」 「農業を教布する場合には、選近な原数的上接重を制止していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または、素剤を使用する場合には、通気をの薬剤を使用している。」 通用のるる当由に対して、は同様の表別を使用を見ている。 通用のるる当由に対して、とものに、手がした。 「場別のの土物理、大きに対して、で、で、ア・バ・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア・ア・バ・ア		植え付け前までに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行っている。	1				
語性や作型に応じた適正な消費・整枝を行っている。 施設内が高温・多温にならないように適正な換気を行っている。高温・多温になる作型。あるいは自合いの小さなネット で展展した場合には簡単語、投気を選手、場合投気できる技術を投資している。 マルトゲリケキシッパチェクのおびを担めまり削している。マルリナリナザは施設外への途亡的止のためネット等の適切な展表や、表は終了後の巣組の過重が過ぎを図っている。 病害虫物除の砂糖 (26) 「理判がを見刻り、病毒虫の発生・砂糖性を入手し、防熱の要否を検討している。 病害虫物除の要否の判断 (26) 「理判がを見刻り、病毒虫の発生・砂糖性を入手し、防熱の要否を対断している。 「理判がを見刻り、病毒虫の発生・砂糖性を入事し、防熱の要否と対している。 に対した見じて粘着トラップ等を設置し、普曳の発生の表生が決を確認し、新きなども考慮して助るの要否、防除時期を判断している。 作物の生育に合むた、充分な家がが得られる範囲で最少の使用量となる最適な数布方法を検討した上で、使用量・技術の生態を有きな場合には、適切が開致的比損量を制止している。 「無難を使用する場合には、通りを対した場合に活用している。 無難を使用する場合には、通りを対した機能を制した上で使用している。 素素を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用している。 素素を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用している。 素素を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用している。 素素を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用している。 素素を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返した上で使用している。 素素を使用する場合には、同の核の薬剤を繰り返したりにしている。 素素を使用する場合には、同な薬剤の薬剤を制しましている。		マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。	1				
品種や作家に応じた海正な保業・受技を行っている。	作物の栽培等理	品種に応じた適正な栽植密度で定植している。	1				
を展張した場合には福田原、映気芸芸等、強制投気できる設備を設置している。 マルハナバチはからが下のの多かであり、では、アルハナバチは施設外への逃亡防止のためネット等の適切な展発や、設場技で後の集局の適正処理を図っている。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、静能している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、静能している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、静能している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、静能している。また、受え手機などを考慮して防険の要否を判断している。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで、防険の要否、防除時期を判断している。	1F初07私石昌珪	品種や作型に応じた適正な摘葉・整枝を行っている。	1				
病害虫発生予察情報の確認 病毒虫的協介が発表する発生予察情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を 1 7つている場合には、その情報を入手し、特別を配きで発付的している。 1 信仰決定月間の、病害虫的協介が発表する発生予察情報を入手し、物族の歴否を検討している。 1 に増かた見間の、病害虫の発生や被害を把握するとともに、残免予解などを考慮して防険の要否を判断している。 1 か要に応じて粘着トラップ等を設置し、管虫の男生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判断している。 1 定機時には殺虫粒剤を施用し、生育初期の害虫男生を防止している。 1 定機時に従殺虫粒剤を施用し、生育初期の害虫男生を防止している。 1 た物の生育に合わせ、充分な素効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・ 1 大教に影響の少ない提出利用している。 1 天教に影響の少ない提出利用している。 1 元素を使用しる場合には、間系核の素剤を繰り返し使用していない、さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または 2 瀬戸のある害虫に対して、北内原類(天教配虫)を有効に活用している。 2 通用のある害虫に対して、日本(外原類(天教配虫)を有効に活用している。 1 通用のある害虫に対して、BT(バチルス・チェーリンゲンシス)剤やボーベリア・バシア・ナ剤などの微生物悪薬を有効 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			1				
(後) 行っている場合には、その情報を入手し、防除の異否を検討している。 「			1				
(必) お作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判断している。 1 定機時には殺虫粒剤を施用し、生育切別の青虫発生を防止している。 1			1				
前作や近隣の作物、施設局辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。 1 に 位時には殺虫性剤を施用し、生育初期の害虫発生を防止している。 1 か 作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な敬布方法を検討した上で、使用量・ 1 放布方法を決定している。 1 乗業を敬布する場合には、適切な飛散防止措置を繰りた上で使用している。 1 天散に影響の少ない殺虫剤を利用している。 1 原薬を使用する場合には、阿系統の薬剤を繰り返し使用していない。 1 原薬を使用する場合には、阿系統の薬剤を繰り返し使用していない。 1 原用のある害虫に対して生物農薬(大阪昆虫)を有効に活用している。 1 原用のある害虫に対して生物農薬(大阪昆虫)を有効に活用している。 1 原用のある高害に対して、NF(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。 2 原用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 1 原用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 1 原場の高と病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 1 原場内ののこ病病を関して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 1 原場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化薬を病すの感染源になるので処分している。 1 原場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化薬を病等の感染源になるので処分している。 1 原場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化薬を病等の感染源になるので処分している。 1 のがよる発達した場合の発生が発生などの用具を消毒している。 1 原機後洗液の薬性・抗薬の発生が発生とてり、発生を助長させないように誤具、手の衛生管理を行っている。前において病害が発生したほぼでは、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 1 原機後洗液の薬施日、病害虫・経草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等 1 のPMに係わる栽培管理状況を作業目眩として別途配縁している。 1 合計点数 第一条 2 原用 2 原用 2 のPM	病害虫防除の要否の判断		1				
作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・ 1	(92-)	前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。	1				
展案を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。 天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。 業業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または 素剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。 適用のある害虫に対して、とのでは、自力を発生している。 適用のある害虫に対して、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは		作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・	1				
天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。	農家の資正使用(必)		1				
農業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤腺受性の低下または 薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。							
連用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。 適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 1		農業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または	1				
に活用している。 適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。 電病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病 株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病 株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 は場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化葉巻病等の感染源になるので処分している。 つィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 収穫後残渣に頻害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を関め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 日本の能験(必) 収穫後残渣は病害の実施に、病害虫・徐草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等 のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 日本のに吸(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 日本の企業の全額、使用時期、使用量、散布方法等 のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。		適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。	1				
福病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病 株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による発病 は場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化葉巻病等の感染源になるので処分している。 1 ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作 において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 1 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸 し込みを行い、青虫の施設外への逃亡を防止している。 1 とみを行い、青虫の施設外への逃亡を防止している。 1 を	生物農薬の利用		1				
株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。		適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に利用している。	1				
つイルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸 し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 研修会等への参加(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計点数			1				
において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 「収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸 し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 「作業日誌の記帳(必) 各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 「「「中華」の「中華」の「中華」の「中華」の「中華」の「中華」の「中華」の「中華	ほ場の衛生管理	ほ場周辺のこぼれ種などから生えたトマトは黄化葉巻病等の感染源になるので処分している。	1				
収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸 1 し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。		ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作 において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。	1				
作業日誌の記帳(必) 各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等 1 のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 1 研修会等への参加(必) 果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計 点数	収穫後残渣の処理(必)	 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸	1				
研修会等への参加(必) 県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 1 合計 点数	作業日誌の記帳(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等	1				
合計 点数	研修会等への参加(必)		1				
 		1					
						+-	

群馬県施設ナスIPM実践指標

	管理項目	T		(普及指導室)				
		管 理 ポイント	点数	昨年度の	今年度の	今年度の		
議会合成の選定	防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1					
###1000第24子別からため、第三には処理書に万角されていない場象と中質を担いている。数を製造を含っている。			1					
	適正な品種の選定	土壌病害の発生を予防するため、抵抗性が高い台木を作型と品質を考慮しながら選択している。	1					
### (4) おいまつしている。			1					
7.7/L 毎の及野養物の整立などの、物理的物語を再発を調じている。 1	健全苗の確保(必)		1					
議論の選択と改善(の)			1					
議論と書類の金属業量 (28) 無数別への音楽伝人的止診		育苗中に病害虫の発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全苗のみを定植している。	1					
総対するの書類では、	ほ場の選択と改善(必)		1					
施設内への害虫侵人防止		ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、施設周辺の雑草防除	1					
アボル当生を指数するため、名称下フラウを収集している。 アリンバーノル公毎の反射対など、重は急を対象とある資材を設置している。	±10.00 (1.		1					
工規引者	施設内への害虫侵入防止措	飛来性害虫を捕殺するため、粘着トラップ等を設置している。	1					
川南・土地港元州等を実施している。 対抗植物の作付け	=	シルパーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。	1					
の悪に応じて土壌診断を受け、起果を参考にして適切な施肥を行い、適別施肥を避けている。また土壌のHを測定 1 し、直正な土地のHに場正している。 1 1 マルチ等により軽固を被覆し、泥のはね上がりを防止している。 1 1 マルチ等により軽固を被覆し、泥のはね上がりを防止している。 1 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	土壌消毒		1					
・適正を土壌中に地圧している。	対抗植物の作付け	ギニアグラス、クロタラリア等を作付けし、センチュウ密度低下を図っている。	1					
マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。			1					
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		植え付け前までに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行っている。	1					
品種や作型に応した適正な病質・受技を行っている。 施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。 「加以内が「ヤンツ」でなどの放花用虫を利用している。マルハナバチは施設外への適正防止のためネット等の 適切な原料・取場をできる機会・予整情報を入手に、酸酸している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予 類を行っている場合には、その情報を入手に、酸酸している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予 類を行っている場合には、その情報を入手に、放動の要否を検討している。 の。また必要に応じて結婚と方の情報を入手に、放動の要否を検討している。 素を使うっている場合には、その情報を入手に、放動の要否を検討している。 の。また必要に応じて結婚トラップ等を設置し、着生の病生動向を把握することで、防除の要否を判断している。 素を必要に応じて結婚トラップ等を設置し、着生の病生動向を把握することで、防除の要否を判断している。 素を必要に応じて結婚トラップ等を設置し、着生の病生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判 している。素を必要に応じて統領トラップ等を設置し、着生の病生を予測している。 「定機時には級虫粒剤を施用し、生育初期の畜虫発生を形止している。 「定機時には級虫粒剤を施用し、生育初期の畜虫発生を耐止している。 「一般を生産に合わせ、充分な家力が得を加している。 「用金 数布方法を検討した上で、使 用力 数布方法を決している。 「無素を使用する場合には、適切な飛散的止措量を護じた上で使用している。 「表表に影響の少ない被虫剤を利用している。 「無素を使用する場合には、通切な飛散的止措量を建じた上で使用している。 「カール・大は素剤を整合する場合には、通りな飛激を使用を抱えている。 「カール・大は素剤を整合にないて、対したいで、対したいで、対しないで、対したいで、対しないで、対しないで、対しいで、対しいで、対しいで、対しいで、対しいで、対しいで、対しいで、対し		マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。	1					
施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。	作物の栽培管理	品種に応じた適正な栽植密度で定植している。	1					
マルハナバチやミッバチなどの訪花昆虫を利用している。マルハナバチは施設外への速亡防止のためネット等の 適切な原務や、栽培診了後の巣油の過正処理を図っている。		品種や作型に応じた適正な摘葉·整枝を行っている。	1					
適切収限限や、数1結子後の巣面の適正処理を図っている。 病害虫粉生予察情報の確認 病害虫助除所が発表する発生予察情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予 教 を行っている場合には、その情報を入手し、耐能の要否を検討している。 に 場内を見回り、病害虫の男生や発育を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。		施設内が高温・多湿にならないように適正な換気を行っている。	1					
(必) 繋を行っている場合には、その情報を人手し、防除の要否を検討している。			1					
病害虫防除の要否の判断 (必) おもい要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判 1	病害虫発生予察情報の確認 (必)		1					
前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。		る。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判	1					
作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使 月量・散布方法を決定している。 1	(92-)	前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。	1					
周妻・散布方法を決定している。		定植時には殺虫粒剤を施用し、生育初期の害虫発生を防止している。	1					
大敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。		作物の生育に合わせ、充分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使 用量・散布方法を決定している。	1					
農業を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農業は使用を控えている。	農薬の適正使用(必)	農薬を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。	1					
たは薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。		天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。	•					
生物農薬の利用 適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を 有効に活用している。 1		農薬を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。	1					
有効に活用している。		適用のある害虫に対して生物農薬(天敵昆虫)を有効に活用している。	1					
福病株や果実、摘菜した葉等は放置せず、適切に処分している。ウィルス病、細菌病等回復が困難な病害による 発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。 ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行ってい る。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 「収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切 り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 「食農作業の実施日、病害虫・餘草の発生状况、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 「日本の修会等への参加(必) 「果や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 「日本の修会等への参加(必) 「日本の修文を持つ話として別途記録している。 「日本の修文を持つ話として別途記録している。 「日本の修文を等への参加(必) 「日本の修文を等に参加している。 「日本の修文を等への参加(必) 「日本の修文を等に参加している。 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。」 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等に参加している。」 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等への参加(必) 「日本の修文等への参加(本の修文等への参加(本の参加)」 「日本の修文等への参加(本の参加)」 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等への参加) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文等へのを使用) 「日本の修文を使用) 「日本の修文を使用) 「日本の修文を使用) 「日本の修文を使用) 「日本の修文を使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日本のを使用) 「日	生物農薬の利用		1					
発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。		適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1					
ウィルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したは場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。 「収穫後残渣の処理(必) 収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。可能であれば収穫終了後、施設内を閉め切り、蒸し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 「作業日誌の記帳(必) 各農作業の実施日、病害虫・除草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 「明や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。 「自計点数	は帰の衛生祭団		1					
(以後を残滅の処理(20) り、素し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 り、素し込みを行い、害虫の施設外への逃亡を防止している。 1 日本	~~ W T E 4		1					
方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。 ・	収穫後残渣の処理(必)		1					
合計 点数	作業日誌の記帳(必)		1					
点数	研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1					
						 		

群馬県施設ホウレンソウIPM実践指標

			(普及指導室)			
管理項目			チェック 欄			
	管理ポイント	点数		今年度 の実施 目標	今年度 の実施 状況	
防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1				
健全種子の確保	苗立枯病予防のため、消毒された種子を使用している。消毒されていない種子は農薬の種子 粉衣等の処理を行っている。	1				
適正な品種の選定	地域に発生するべと病のレースを考慮して、抵抗性品種を選択している。	1				
栽培ほ場周辺での雑草管理	は場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ほ場 周りの雑草防除に努めている。	1				
ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択している。排水の悪いほ場に作付けする場合は、高畦とする等対策を講じている。	1				
	必要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行い、過剰施肥を避けている。 また土壌pHを測定し、適正な土壌pHに矯正している。	1				
	は場に有機物を施用する場合は未熟なものの施用を避け、タネバエやコナダニの被害を防いでいる。	1				
作物の栽培管理	播種までに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕耘を行っている。多年性雑草は、 地下茎まで抜き取り、適切に処分している。	1				
	前作及びほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理している。	1				
	品種に応じた適正な栽植密度としている。	1				
	施設内への害虫の侵入を防止するため、栽培施設を紫外線除去フィルムで被覆している。	1				
施設内への害虫侵入防止措	施設内への害虫の侵入を防止するため、施設開口部にネット等を展張している。	1				
ル設内への音気を入り止消 置(必)	飛来性害虫を捕殺するため、粘着トラップ等を設置している。	1				
	シルパーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。	1				
土壌消毒	土壌病害、線虫の発生が懸念されるほ場においては、植付前に薬剤による土壌消毒や太陽 熱消毒、土壌還元消毒を実施している。	1				
対抗植物の作付け	ギニアグラス、クロタラリア等を作付けて、センチュウの密度低下を図っている。	1				
病害虫発生予察情報の確認 (必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討している。	1				
病害虫防除の要否の判断 (必)	は場内を見回り、生育初期から病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。	1				
生物農薬の利用	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1				
	抵抗性の発達を防ぐため、特定の成分の農薬を繰り返し使用していない。	1				
農薬の適正使用(必)	農薬を散布する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用している。	1				
ほ場の衛生管理	べと病等の罹病葉は放置せず適切に処分している。ウィルス病など回復困難な発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。	1				
収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1				
作業日誌の記帳(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。	1				
研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1				
		合計 点数				
		評価結果				